

マーマレード作りを通して、地域交流を活発化

活動地域（東京都杉並区）

男性のプロフィール

氏名：太田 信司さん

年齢層：高齢者層（60歳以上）

活動概要：民家などで利用されていない果実（夏みかん）をマーマレードにして、地域交流や食育に取り組む。マーマレードは障害者就労支援センターでパンやケーキに使用され、販売されている。すぎなみ大人塾OBで「もったいない倶楽部」をつくり、2008年よりマーマレード作りに取り組む。

活動開始のきっかけ

教育委員会の主催事業への参加がきっかけ

現役時代より、60歳になって余暇の過ごし方を考えても遅く、早めに準備して、充実した第二の人生を送りたいと思っていました。また、人が健康に暮らしていく上で「食」が最も重要だと考えていました。

こうした思いを持っていたときに、教育委員会主催の事業に「すぎなみ大人塾」という講座があり、「スローフードな地域づくり～地産地食」をテーマにしたコースが開催されることを知り、この大人塾に参加したことが、私が今行っている活動の原点となりました。このとき、私は57歳でした。参加者は30名ほどで、女性が9割を占めていました。

講座が終了し、6ヶ月後、教育委員会が「スローフードな地域づくり～地産地食」のフォローアップのために、有志で集まる場を設けました。OB・OGたちが約15人集まり、学んできたことを振り返るとともに、「食」と「農」をテーマにした今後の活動として何ができるかを話し合いました。こうした話し合いなどには、教育委員会から無償で会場が提供されました。メンバーの話し合いの中で、「公園や民家でほったらかしになっている夏みかんは、実っているのに手がつけられていなくてもったいないし、道端におちて汚いね」というつぶやきが出ました。そのつぶやきに一同賛同し、マーマレード作りに発展しました。この地域では夏みかんを庭に植えているお宅が多く、マーマレード作りは、地域性のあるテーマでもあり、かつ、資源の有効活用でもありました。

活動の内容

地域活動の一環として、大人塾OB仲間とマーマレード作り

マーマレード作りの最大の目的は、あまり活用されていない（捨てられている）夏みかんでも美味しいマーマレードができることを知っていただき、少しでも「もったいない！」意識を高めることです。

そこで、グループ名を「もったいない倶楽部」として活動することになりました。現在のメンバーは男性3名、女性8名の計11名で、女性の割合が多いグループです。

マーマレードを作る際には、都立農芸高等学校の先生にアドバイスをいただきました。また、私は自発的に夜間の専門学校へ通い調理師の免許を取得したので、その資格が活かされることになりました。

材料となる夏みかんを集めるために、夏みかんのあるお宅へ「突撃アタック」として依頼文書のポスティングを行います。昨年は775個（226kg）の夏みかんを提供していただきました。いただいたお宅には、お礼としてできたマーマレードを差し上げており、大変喜ばれています。

マーマレード作りは営利目的ではないのですが、「マーマレードをもっと食べたい」という声を受けて、障害者の就労を支援する「どんまい福祉工房」の方々と連携して、工房が作るパンやケーキにマーマレードを練り込んで販売することを始めました。さらに、昨年からは、工房の要望でマーマレードの瓶詰めも販売することになりました。

活動の やりがい

地域活動により充実した生活が実現

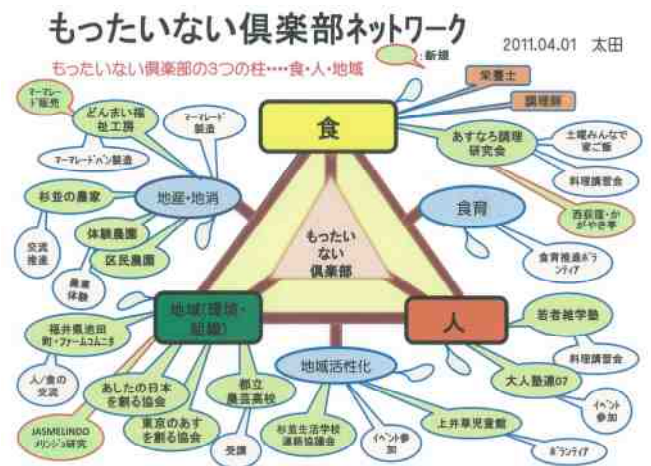
40年近くサラリーマン生活を送ってきたので、地域活動の「ビジネスライク」でないところに面白さとやりがいを感じています。また、「退職後の人生において地域貢献ができています」という喜びを日々かみしめています。現役時代に思い描いていた、「ただ生きるためではなく、充実した生活を送りたい」という目標が実現しつつあるのを感じています。

周囲との関わり

もったいない倶楽部のネットワーク

もったいない倶楽部は、様々な組織と連携することによって、活動の幅をどんどん広げています。

その一例が、福井県池田町との交流や、「西荻まちレストラン・かがやき亭」でのお年寄りを中心にした食事を提供する活動です。私は、かがやき亭に木、金、土曜日の週3日通い、ランチを調理しています。



直面した課題と解決方法

女性が約8割。職場の経験を生かして調整を図る

平成19年から活動を続ける中で、やはり意見が衝突することがあります。もったいない倶楽部のメンバーは、女性が約8割を占めているのですが、意見が衝突したとき、言いたいことが言えずに、重い雰囲気になることがあります。

そのようなときこそ、会社組織で培われた経験が役立ちます。職場では、日頃からグループの中での調整をとってきました。時には、グループを越えて組織間の調整役を担うこともありました。そうした経験があったので、私は、もったいない倶楽部において、率先してメンバー間の調整役を買って出るとともに、組織間の調整役も積極的に引き受け、ネットワークの幅を広げてきました。今では非常に良い関係が築かれていると自負しています。

また、私はパワーポイントやエクセルを使っただけの資料づくりを率先して行うなど、現役時代の経験を今の地域活動に生かすようにしています。

これからの展望

マーマレード作りを通して地域交流を促進させる

地域の民家から夏みかんを提供していただき、それをマーマレードとしてお返しする。これは、民家ともったいない倶楽部との、点と点の活動のように見えますが、実は、点が次第に地域に広がっていることを最近実感するようになりました。我々の活動に共感していただいたお宅からは、毎年季節になると「夏みかんを提供しましょうか」とか「まだ取りに来ないのですか」という声がかかるようになり、地域とのつながりが形成されてきました。

「継続は力なり」、「無理をせず、できることをできる人ができるだけ」をモットーに、地域の交流をさらに広げていくため、マーマレード作りに取り組んでいきたいと思っています。